日本史伝川柳狂句

十四

岡田三面子編著
中西賢治校訂

古典文庫

岡田三面子編著
中西賢治校訂

日本史待以柳枕句

十四

古典文庫

古典文庫第三六八冊 ©

昭和五十二年五月二十日印刷発行　非売品

日本史伝川柳狂句
第十四冊

校訂者　中西賢治
発行者　吉田幸一
印刷者　白橋印刷所

発行所　114 東京都北区西ヶ原三ノ三四ノ一二
古典文庫
電話（九一〇）二七一七
振替口座東京九・一四五九七番

不許複刻

凡　例

一、**第十四冊**として、三面子原文の第十四冊の初、近古之巻、二、鎌倉時代「歌カルタ」（一三〇三頁）から、「大徳寺」（一三九二頁）までを収めた。

一、校訂に際しては、三面子原文を見得る限りの原本によって照合し、欠字（伏字）を充塡し、出典を補訂した。

一、終に、翻刻に当り、三面子原文の欠字充塡その他について、貴重な資料を御貸与賜り、また、多くの御援助を忝うしました大坂芳一・大澤美夫・倉島長生・進士慶幹・鈴木一・千葉治・中西孝雄・延廣真治・芳賀定・花崎清太郎・濱田義一郎・廣田政之進・南得二・山澤英雄の諸氏、其他お名前は記しませんが多くの皆様方、また、閲覧を御許可下さいました国会・東京都中央・東洋文庫・日本大学総合・無窮会の各図書館並びに日本大辞典刊行会に感謝致します。

昭和五十二年三月七日

中西賢治

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertong

岡田三面子先生遺稿

日本史伝川柳狂句　第十四冊

（近古之巻　二、鎌倉時代つづき）

○歌カルタ（一二四一）

○カルタは西班牙語Carta札（カアド）の謂なり、最初に渡来せるを天正（一五七三）カルタと云ひ、トランプに似たるものなるが、頓て之に擬していろはカルタ、花カルタ、詩骨牌、歌骨牌等が作出せられ、又歌骨牌の中には明倫百首、源氏物語、古今集、伊勢物語の歌を採れるものあれど、最も古く、最も普通に、特に正月の慰みとして今も仍ほ上下の愛用するハ小倉百人一首の歌を掲げたるものなり、蓋し昔の歌貝を改作せるならん、

一、一　般

（重出）
貝桶は源氏小倉は桐の箱　五四・一九オ

百人首絵の出来たのハはるか後　五・一五ウ

カルタの絵我敷嶋の道ならで　二・三六オ

我敷嶋の道ならてカルタの絵　傍四・三二オ

絵が無イと男女の知れぬ百人首　八・四一ウ

（重出）
ゑほしやの帳ハさなから百人一首　宝八寅・天

（重出）
入道に毛のはへて居る百人一首　四四・三ウ

（重出）
入道が髪を結ッてる小倉山　七四・一二オ

大内の細工の末ハ哥かるた　宝一〇辰・義三オ

内職に百の上下公家衆張り　新々六・小六ノ二五ウ

百の上ミ下内職に公家仕立テ　一四五・二三オ

おつれ〳〵畳半畳小倉山　五六・二八ウ

哥かるたやろう畳のうへてなし　拾九・三〇オ

――へり無し

時雨の撰を春雨のおなぐさみ　一二〇・二六ウ

旅てなひ歌枕する春の宵　二六・三五オ

百人首二ッにわつて御なくさみ　六・二〇ウ

人寄を百人すれはひんがよし　三〇・一一ウ

ひんのいゝ勝負場中にたつた百　筥四・二一ウ

四箱あつめたのハけちな哥かるた　一七・一一オ

哥かるただき絵といつてしかられる　二二・一一ウ

哥かるたチョキ〳〵切てしかられる　七・一二オ

あをのけにまくでかるたの品ンがよし　筥四・三一オ

真四角に三千百字ならべたて　六五・八ウ

——上下を全部並べることあるか？

田毎程月を並へる哥カルタ　五八・二一ウ

十七字読んで百度尋ねさせ　五〇・二五ウ

百度に十四文字つゝたつねさせ　明六丑・智一ウ

百人一首頭かおきつうつむきつ　宝八寅・満

我衣手で見え兼た哥カルタ　嘉六・佃二八オ

哥ガルタ片手に袖をしぼりつゝ　三七・三オ

うつむいて月を尋る歌カルタ　新々六・小七の二七ウ

松の内しるもしらぬものぞくなり　一二・二八オ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

百人をのけて礼者を居らせる　五九・四オ
歌カルタかいてとつてハしらすなり　二五・一六ウ
哥かるた迄ぶつ付ケるげひた事　明五申・智五ウ
百人を五六人して追まハし　四〇・一三オ
百人を六七人でとりしまき　玉・二ウ
小倉山四角な迷子見て歩行キ　宝一〇辰・松二オ
二百枚あるとかるたもひんがよし　玉・二五ウ
弐百まひあるで礼者におどろかす　安五申・礼一ウ
哥かるた人といふ字に手か五ツ　拾初・九オ
哥ガルタ人といふ字に手を重ね　武一七・三八オ
春過ぎて夏と云はさぬ哥かるた

もふちつとひざを引キなと哥かるた　明七寅・礼三ウ

ごうせいなうでゝ下モの句取はぐり　二〇・一〇ウ

毛の生た手ハ叩かれる哥ガルタ　続洞観集五

哥カルタ尻目遣イで見うしない　宝八寅・松二

哥かるた気色（きしよく）とらぬともつととれ　一一・二オ

しりまくりくらとハあらい哥かるた　一一・三三オ

百人一首末へ行ほど身もんだい（重出）　拾四・二二ウ

かち原て惣立チにする小くら山　天二寅・天二オ

御しとねの下たに尋た歌カルタ　六〇・二オ

膝の下から月の出る哥カルタ　四一・二〇甲オ

歌カルタ膝の下からほとゝきす　二八・二八ウ

哥カルタ膝の間から八重葎　梅柳二四・二八オ

歌かるた小町もとれバ穴が明キ　五一・一〇ウ

跡へ廻しなとせき込ム歌カルタ　二九・二〇オ

古哥を百よんで仕廻ふと畳ミ也　傍初・一二オ

御座敷ハ哥次キの間ハ寝たガルタ　化五神初・三八ウ

橙ひとつで百人をかたつけ　貌・六オ

哥かるたなどに事よせなめたがり　八・二三オ

哥ガルタ夜に逢ふ関へ手を出シ　嘉三・差一一オ

哥かるた子の刻迄がかぎり也　一〇・一八ウ

鶏が鳴に天皇秋の田の　筥初・一四ウ

百五十弐まい多イをしまわせる　一五・四オ

鶏の啼迄馬鹿なうたかるた　傍初・二六ウ

あかつきの枕にたらぬカルタ箱　初・六ウ

哥カルタじやうたつをしてよみになり　安六酉・松五ウ

△小倉山哥カルタほと花見莚　梅柳八・一一オ

△秋の田の刈(籾)干す庭に哥(の)ガルタ　(新一七・秋三ウ)(新二四・ハツ一一オ)

△印二句ハカルタに非ず・形容

紫に成ルも其日の御なくさみ　宝八寅・九・一五日オ

二人ツ、屏風に這入ル哥かるた　宝八寅・満二ウ

皆人のひるねのたねやよみかるた　宝九卯・閏七・二五日ウ

講尺のはてハ草リて歌カルタ　宝八寅・九・二五日オ

哥かるた中に茶臼もおハします　宝一三未・鶴二オ

その元をたつねて見れハ御かるた　宝八寅・宮

?前句・おもひ事かな〳〵

二、女　子

哥かるた好イた男を入レたがり　一〇・二三オ

秋の田を娵や娘てこねかへし　一六一・一五オ

おばあさんのハ秋の田かよめぬ也　二九・一〇オ

哥かるた女の中へまけに出る　一九・一一オ

ふり袖の木の葉かくなる歌カルタ　あづまからげ

ふり袖で度ヒ〳〵上ミの句をくづし　〔明三戌・満一オ　四・一一オ〕

五分永ガのひらめく度ヒに哥がへる　〔安五申・梅一ウ　種彦句会〕

ふり袖をうごかすたびに哥がへり　一五・二八ウ

降りつゝと雪の手を出ス小倉山　九四・三六ウ

秋の田へ白い手の出るおなくさみ　二五・一オ

白い手の間違て出る雪と露　五四・一九オ

雪と露せいて衣をまちがへる　四〇・六オ

百人て御機嫌をとる御延引　二六・二〇ウ

御延引古哥をならへて御たのしみ　一〇・二四オ

瀬をはやミ娘下の句そつと読ミ　新二七・葉四オ

娘どしかけにしてとる千早ふる　三一・七オ

哥かるたにも美しひ意地か有　初・二二ウ

哥がるた冨士と浅間があたり合　五三・六オ

——謡曲

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong